

3 災害時の避難支援のポイント

災害時の避難誘導については、支援を必要とする方の特性を理解した上で支援することが大切です。以下の支援のポイントを参考に、要援護者やその家族と十分話し合いながら、支援内容を事前に検討しておきましょう。

【共通するポイント】

- 不安な状況におかれている方の身になって、尊厳と温かい思いやりの心で接しましょう。
- 支援の際の注意事項(どんなことをしてはいけないのか)に留意し、要援護者が何に一番困っているかなどを十分聞き取りましょう。⇒ P29の「防災カード」を活用しましょう！
- 要援護者の個人情報の取扱いには十分注意しましょう。
- できない支援や無理な約束はしないようにしましょう。事故につながる可能性があります。
- 避難経路、避難にかかる時間、危険箇所などについて、災害の種類や避難する時間帯に応じて、十分に検討しておきましょう。⇒ P30の「ワークシート」を作ってみましょう！

高齢の方(ひとり暮らし・高齢者のみの世帯)

災害情報などの入手や理解に支援が必要です。

- まわりの状況に気付かなかったり、避難情報の意味を理解していない場合があります。災害状況や避難情報を簡潔でわかりやすい言葉で伝えましょう。
- 自力で行動できても、すばやく行動できない場合があります。声をかけて不安を取り除き、必要に応じて避難場所まで誘導しましょう。



高齢の方(寝たきりの方)

介護者に必要な支援を尋ね、複数の人で対応しましょう。医療的なケアが必要な方には、緊急的に医療機関への連絡や移送の手配が必要になる場合があります。

- 救急隊や医療機関等との連携がなければ搬送が難しいことも考えられます。事前にどういった機関の支援が必要か、本人や家族などと話し合っておきましょう。
- 寝たきりの方の避難支援には、車いすや担架を使用したり、場合によっては紐でおんぶすることもあります。
- 介護用品(紙おむつ、ウェットティッシュ、バスタオル、クッションなど)を非常持出品に加えるようアドバイスしましょう。



高齢の方(認知症の方)

認知症の方を一人にしないよう、介護者をサポートすることが大切です。

- 認知症の方は環境の変化により気持ちが混乱したり精神的に不安定になる場合があるため、日常の介護者が同伴して気持ちを落ち着かせ、誘導時は一人にしないようにしましょう。
- 認知症の方の人格や尊厳が守られるよう注意しましょう。誘導する場合は、具体的に短い言葉で、ゆっくり説明しましょう。同じことを繰り返し聞かれても、面倒がらずに説明しましょう。
- 介護者は常に認知症の方から目が離せないため、想像以上にストレスを感じています。介護者に必要な支援を尋ね、介護者をサポートをしましょう。



車いすを利用している方・手や足などに障がいのある方

障がいの部位や程度によって支援方法は異なります。どのような支援が必要か勝手に判断せず、本人や家族などに確認し、その方に適した方法で支援しましょう。

車いすを利用している方への配慮

段差を上がる時は

- 「上がります」と声をかけながら、ティッピングバー(後車輪の内側の棒で、これを踏めば前輪があがる)を踏み、ハンドグリップ(持ち手)を押し下げ、前輪を段の上ののせてから、後輪を段の上にあげます。
- 溝の上を行く時や砂利道を進むときも、同様にティッピングバーを踏んで前輪をあげて進みます。



段差を下がる時は

- 「下ります」と声をかけながら、後ろ向きになって、まず後輪を下ろし、次に前輪を浮かせながら後ろ向きに引き、前輪をゆっくり下ろします。